

이/가

主語を示す助詞

日本語の「が」に当たりますが、重なるのは半分ほどです。形の選び方はパッチムの有無だけ。難しいのは「은/는」との使い分けで、これは「は」と「が」の感覚では割り切れません。

■ つけ方

語末	形	例
パッチムあり	이	학생이
パッチムなし	가	친구가
나 (僕・私、くだけた)	내가	나가ではない
저 (わたくし、丁寧)	제가	저가ではない
누구 (誰)	누가	누구가ではない
敬意を払う主語	께서	선생님께서

■ 「가」とどう違うか

動作をする人やものを示す、という基本は「가」と同じです。고양이가 자요 (猫が寝ています)。ここまでは迷いません。

問題は「は」と「가」の使い分けが、そのままでは通じないことです。日本語では「私は学生です」と言うところを、韓国語でも저는 학생이에요 と言えます。ここは重なります。

ずれるのは答えるときです。누가 왔어요? (誰が来ましたか) に答えるなら、必ず 이/가 です。마이클이 왔어요. ここで 은/는 を使うと「マイケルは来ましたが、ほかの人は？」という含みが出てしまいます。日本語の「が」と同じ働きですが、韓国語のほうがこの区別に厳しいと考えてください。

もう一つ、있다・없다・되다・아니다 と状態を表す形容詞の主語は、原則 이/가 です。시간이 없어요 を 시간은 없어요 にすると、意味が変わります (時間はない＝ほかのものはある)。

■ 例文

- 1 동생이 지금 자요.
弟 (妹) が今寝ています。
- 2 친구가 한국에서 왔어요.
友だちが韓国から来ました。
- 3 시간이 없어요.
時間がありません。
- 4 누가 이 책을 읽었어요?
誰がこの本を読みましたか。
- 5 제가 하겠습니다.
わたくしがやります。
- 6 할아버지께서 신문을 보세요.
おじいさんが新聞を読んでいらっしゃいます。

■ 紛らわしいもの

은/는
日本語の「は」に当たりますが、境界が違います。韓国語의 은/는 は「対比」の色が強く、答えの部分に使うと余計な含みが出ます。自己紹介など、話題を提示する場面では日本語と同じ感覚で使えます。
저는 학생이에요. (自己紹介・日本語と同じ) / 누가 왔어요? → 마이클이 왔어요. (答えは 이/가)

께서
이/가 の敬語形です。日本語には対応する助詞がなく、動詞側の敬語 (～れる・いらっしゃる) で表す部分を、韓国語は助詞でも示します。述語には -(으)시- が伴います。
선생님께서 오셨어요. (先生がいらっしゃいました) / 친구가 왔어요.

도
「も」に当たります。도가つくと 이/가 は消えます。日本語で「弟もが」と言わないのと同じです。
동생도 왔어요. (○) / 동생이도 왔어요. (×)

■ まちがえやすい点

- ✕ 나가 할게요.
○ 내가 할게요.
나 と 저 は 가 の前で形が変わります。나가・저가 は存在せず、내가・제가 だけです。話すときに最も多い誤りです。
- ✕ 누가 왔어요?
○ 누가 왔어요?
누구 は 가 の前で 누 に縮まります。누구를・누구예요 など、ほかの形では 누구 のまま残ります。
✕ 누가 왔어요? → 마이클은 왔어요.
○ 누가 왔어요? → 마이클이 왔어요.
答えの中心になる語には 이/가 を使います。ここで 은/는 を使うと「マイケルは来たが、ほかは？」という対比が生まれ、質問に答えていないことになります。